

# 平成29年度 施策評価表

課・グループ名	保健福祉課高齢者包括グループ
---------	----------------

作成年月日：平成30年 9月28日

<b>施策名</b>	4-(3)-④ 地域包括ケアシステムの充実		
<b>1. 施策の現状分析及び展開方向</b>			
<b>政策・施策の体系</b>	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり	④地域包括ケアシステムの充実
<b>①施策のねらいと展開方向</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域包括ケアシステム推進のため、関係機関だけでなく地域住民も参加する会議を開催します。</li> <li>● 高齢者が人生の最後まで住み慣れた地域で暮らせるよう在宅医療と介護を一体的に提供できるよう支援します。</li> <li>● 認知症本人の意思を尊重しながら、本人のみならず家族を含めた早い段階からの支援を包括的、集中的に行い、自立した生活が送れるよう支援します。</li> </ul>		
<b>②施策の現状と課題</b>	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化の進展により、一人暮らしや老老介護高齢者など困難世帯が増加しています。</li> <li>● 住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるよう、保健、医療、福祉、介護関係機関や地域住民等の連携のもと活動しています。</li> <li>● 高齢者の約4人に1人が認知症又は予備軍であり、認知症の理解を深めるため、認知症サポーター講習などの普及・推進を図っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療や介護を必要とする状態になっても、高齢者が住み慣れた地域で、必要なサービスを切れ目なく提供することが求められています。</li> <li>● 社会保障制度の変化や多様なニーズに的確に対応することが求められています。</li> <li>● 様々な問題を抱えた高齢者であっても、在宅生活が継続できるよう関係機関や地域の連携により対応が求められています。</li> <li>● 認知症の方に対して専門チームによる早期診断・早期対応が求められています。</li> </ul>	

<b>2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況</b>							
<b>① 成果指標</b>	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
	認知症高齢者の見守りや家族に対する理解を深めることで、認知症になっても暮らしやすい地域づくりを進められるよう、認知症サポーター講座受講者数（延べ）を成果指標とする。			成果指標（総合計画・施策評価）		○ 可 能	
				認知症サポーター講座受講者数（延べ人数）		不可 能	
				代替指標 ※成果指標がない場合		未計測	
						指標の設定	
		可 能	不可 能				
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
<b>②指標データ</b>	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目 標	人				1,260	1,660	
実 績	人	961	1,059	1,120	1,252		
達成率	%				99.4		中学1年生への講習会を毎年行うなど、認知症サポーター講習などの普及・推進を図ったことにより増加した。
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
<b>③施策の達成状況</b>	A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）				<b>施策の達成度</b>	高齢者や認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護者へのケアも含めて関係機関や地域による支援体制づくりを進める必要がある。	
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）						
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）				<b>B</b>		
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）						

